

選択必修：麻酔科

I. プログラムの目的と特徴

本プログラムは、麻酔科で行う期間1ヶ月以上の卒後臨床研修プログラムである。

麻酔科研修の目的は、手術患者の周術期管理の研修を通して、医師として必要な「基礎的知識」と「基本的手技」を習得することである。

麻酔科としての特徴は、手術における麻酔管理を習得することにより、救急医療、集中治療、疼痛治療（ペインクリニック）などの他分野に通じる知識・技術をも習得できるところにある。

II. 医師リスト

研修指導責任者： 深 田 祐 作

指 導 医： 廣 田 和 美（弘前大学大学院医学研究科）

III. プログラム参加部局

- 1) 手術室
- 2) ペインクリニック外来
- 3) 外科系病棟

IV. プログラム管理運営および指導体制

プログラムの責任者、研修指導者、研修指導医の合議により管理運営を行い、指導は研修指導責任者と指導医が行う。

V. 研修方法と内容

研修期間 1～3ヶ月

週に5日、手術室に勤務し、麻酔指導医とともに手術患者の周術期管理（術前評価、術中管理、術後管理）を見学または実施する。

週に半日、ペインクリニック外来に勤務し、痛みの治療を見学する。

VI. 研修カリキュラム

1. 研修目標

一般目標（GIO）

手術に対し、安全で苦痛の少ない周術期管理を行うために、

- 1) 患者管理に必要な基礎的知識を習得する。
 - ・ 生理学、解剖学、生化学などの基礎医学的知識及び臨床に必要な病態生理学、薬理学などを再確認する。
 - ・ 患者の診察所見や検査データを正しく解釈するための知識を習得する。
 - ・ 各種麻酔方法について理解する。
 - ・ 各種モニタを使用し、生体情報を正しく取得するための知識を習得する。

- ・ 鎮静や鎮痛に使用する薬剤の知識とその使用方法を習得する。
- 2) 患者管理に必要な基本的手技を習得する。
 - ・ 末梢静脈穿刺、動脈穿刺、気道確保法（気管挿管を含む）などの基礎的手技を習得する。
 - ・ 手術中の意識、呼吸、循環、代謝について、各管理法を習得する。
 - ・ 各種鎮痛法の知識と技術を習得する。
 - ・ 外科医、手術室スタッフとのチーム医療を習得する。

行動目標（SBOs）

- 1) 意識、呼吸、循環、代謝に関する基礎医学的知識を述べることができる。
- 2) 手術患者に術前診察を行い、麻酔リスクの説明をすることができる。
- 3) 麻酔管理に必要な検査データについて評価することができる。
- 4) 患者及び手術に応じた静脈路を確保することができる。
- 5) 気道確保困難について説明することができる。
- 6) 全身麻酔導入時にマスクによる気道確保と換気をすることができる。
- 7) 各種エアウェイを適切に使用することができる。
- 8) 喉頭鏡又はエアウェイスコープを用いて、気管挿管を安全かつ確実に行うことができる。
- 9) ラリンジアルマスクの構造を理解し、使用することができる。
- 10) 全身麻酔薬の作用機序、使用方法を述べることができる。
- 11) 局所麻酔の方法と合併症を述べることができる。
- 12) 生体モニタ（脳波、パルスオキシメータ、カプノメータ、心電図、血圧）の情報を評価することができる。
- 13) 手術中の意識レベルの調節を行なうことができる。
- 14) 患者に応じた人工呼吸を行うことができる。
- 15) 手術中の血圧、心拍数の変動に対処することができる。
- 16) 動脈採血を行い、ガス分析を実施し、結果を評価することができる。
- 17) 手術中の血糖、電解質、酸塩基平衡を評価し補正することができる。
- 18) 各種酸素投与方法について説明し、患者の状態に応じて実施することができる。
- 19) 術中・術後の痛みに対し適切な鎮痛法を選択することができる。
- 20) 外科医、手術室スタッフと適切なコミュニケーションをとることができる。

VII. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
7 : 45	術後回診	術後回診	術後回診	術後回診	術後回診
8 : 30	手術室 ミーティン グ	手術室 ミーティン グ	手術室 ミーティン グ	手術室 ミーティン グ	手術室 ミーティン グ
9 : 00	術前診察	術前診察	術前診察	術前診察	ペインクリニック 外来
10 : 00	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	
					13 : 00
17 : 00	術後回診	術後回診	術後回診	術後回診	術後回診

- 研修期間中に青森県内で開催される麻酔科関係の研修会に参加し、最新の知識を習得することも可能